

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年 7月 2日 更新

事務事業名	郷土の歴史学習マンガ「合志義塾」製作事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会	課長名 辻 健一
	施策	24	歴史と伝統文化を活かした郷土愛の醸成		所属課	生涯学習課	担当者名 菅 真一郎
	基本事業	80	歴史と伝統文化に触れる機会の提供		所属班	生涯学習班	(内線) 1513
予算科目	会計一般	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果
終了、開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 25年度で終了 <input checked="" type="checkbox"/> 25年度から開始				事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	明治25年西合志村黒松に誕生し、昭和25年までに約7000人の卒業生を輩出した私塾「合志義塾」を郷土の誇れる歴史として、子供たちや市民に分かりやすく伝えていくために、学習マンガ本の製作を行う。
【業務の流れ】	1. 合志義塾マンガシナリオ検討会議、原案作成、監修 → 2. マンガ作成 → 3. 印刷製本 → 配布(小中学校40冊/クラス×10校=400冊、図書館・公民館等100冊 合計 500冊)
【主な予算費目】	1. 検討会議、原案作成、監修費(90万円/一式) 2. マンガ作成費(21万円/140ページ) 3. 印刷製本費(100万円/A5並製 カラーコート4ページ、二色8ページ全150ページ 500部)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	23年度事業として「合志義塾」を広く市民に知ってもらうための講演会をヴィーブルで行った。この講演をとおして、「合志義塾」を郷土の誇りとして後世に伝えていこうという気運が起きている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分: 新規
① 手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)	26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
明治25年西合志村黒松に誕生し、昭和25年までに約7000人の卒業生を排出した私塾「合志義塾」を郷土の誇れる歴史として、子供たちや市民に分かりやすく伝えていくために、学習マンガ本の製作を行う。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: マンガ本製作部数	冊
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
児童・生徒・市民	(単位) 人
	→ ア: 市民
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
合志市の歴史を分かりやすく理解することができる	(単位) 人/年
	→ ア: 本を読んだ児童・生徒・市民の数
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠	
多くの歴史と伝統文化を知り、触れることができる	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	実績(決算)	実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア	冊			500	500				
	イ									
② 対象指標	ア	人			0	0				
	イ									
③ 成果指標	ア	人/年			0	0				
	イ									
投資 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	人 件 費	一般財源	千円			4,000	3,969			
		(A) 事業費計	千円			4,000	3,969			
		(A)のうち指定経費	千円			0	0			
		(A)のうち時間外、特勤	千円			0	0			
		正規職員従事人数	人			0	0			
延べ業務時間	時間			0	0					
(B) 人件費計	千円			0	0					
トータルコスト(A)+(B)	千円			4,000	3,969					

事務事業名	郷土の歴史学習マンガ「合志義塾」製作事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	----------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度の後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

マンガで「合志義塾」を製作したことにより、さらに「合志義塾」を市民に知ってもらうことができ、郷土の誇りとして後世に伝えていこうという気運が起こっている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（有効性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（効率性改善） <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善（公平性改善） <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持																				
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																					